

ニュージーランドと日本の学校の違いについて

倉敷市立庄中学校 2年小野藍子



日本

授業や教室

- ・座る席が決まっている
- ・基本的に教室で授業を受ける
- ・ノートや文房具を使う
- ・教科書を使う
- ・自分の教室があり、担任がいる。
- ・毎日宿題が出る
- ・先生が授業を進め黒板やパソコンを使い 教える。

時間割

- ・クラスで同じ時間割

校則

- ・校則が厳しい
- 髪型にも決まりがある

休み時間

- ・50分の授業後、毎回10分の休憩がある。昼休みは、20分ある。
- ・教室や廊下で友達とおしゃべりをしたり、図書館に行ったりして過ごす。

ニュージーランド



- ・座る席が自由
- ・授業ごとに違う教室で授業を受ける
- ・パソコンを使う
- ・全く教科書は使わない
- ・自分の教室がなく、担任もいない。宿題はない。しかし、授業中にできていないことは、家に帰ってやる。という感じ。
- ・先生は指示を出すくらい。ホワイトボードはあったがほとんど使っていなかった。

- ・選択科目によって各自の時間割

- ・校則が緩い

- ・1時間目の後と4時間の後に30分くらいの長い休憩がある。
- ・スナックタイムにお菓子を食ったり、友達とおしゃべりをしたり、している。

登下校

- ・大半はバスで登校している。
- ・徒歩もしくは自転車を使用している。
- ・自転車、保護者の車での送迎もある。
- ・徒歩か自転車は、距離で決められる。
- ・徒歩は、ほとんどいない。

義務教育期間

- ・小学1年生から中学3年生までの9年間
- ・year 2 から year11 までの10年間

義務教育の大きな違い

ニュージーランドと日本の義務教育の大きな特徴は、**中学校と高校の区別がなく、一貫教育を行うところです**。義務教育はYear 1 から Year11 (16歳、高校1年) になっています。その後の進路は個人によって大学、ポリテクニク、専門学校、就職などに分かれていきます。

感想

実際に一人の生徒としてリンカーンハイスクールに通ってみることで、自分の視野を広げることができたと思います。リンカーンハイスクールに通ってみて私が思ったことは、日本は様々なことがきっちりと決められている学校生活だけど、ニュージーランドは、縛りのないのびのびとした学校生活だということです。そして、ニュージーランドの学校は様々なことを生徒個人の判断に任せていました。日本の学校も、もう少し個人の判断に任せればいいのになと思いました。